

ふん尿散布と
おいしいサイレージの関係

春のふん尿散布が間近に迫っていますね。ふん尿散布とサイレージ発酵品質の関係についておさらいしましょう！
ふん尿散布は肥料として有効ですが、その反面、施用の仕方ではサイレージの発酵品質に悪影響を与えます(図1)。次のことに気をつけましょう！

長所

- ・ 牧草の肥料となる
→ 化学肥料の減肥によりコスト減

短所

- ・ サイレージの発酵品質に影響
→ 酪酸やアンモニアが発生し牛の摂食量の低下

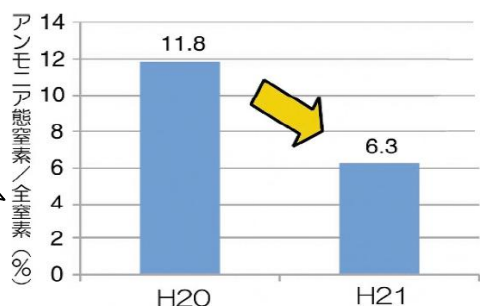
図1 ふん尿散布の長所と短所

早春スラリー散布の改善事例(根室A農場)

春の散布量を減らし、散布時期を早めた事例です。

表. 改善前と改善後の散布状況

	改善前 (H20)	改善後 (H21)
スラリー散布量 (t/10a)	3.0	2.0
散布日 (月日)	5/14	5/10
散布から収穫までの期間 (日)	43	55



(根室普及センター調べ) 図. A 牧場サイレージ発酵品質の違い

① 撒きすぎに注意しましょう！
ふん尿の施用量が多くなると、サイレージ中の糖分が少なくなるとい報告がありま

す。植物は糖分を使い、窒素からアミノ酸やタンパク質に変換します。
ふん尿の施用量が増えると窒素供給量が増え、その糖分が消費されてしまいます。糖分は乳酸菌のエサになるため、サイレージの良い発酵には欠かせません。

② 施用時期が遅くならないようにしましょう！
ふん尿には非常に多くの雑菌が含まれています。牧草に付着したままサイレージに入ると発酵品質が悪くなる要因となります。

混入を防ぐには、施用量もそうですが、施用時期にも注意が必要です。
ふん尿の施用から収穫までの期間が短いとふん尿がサイレージに混入する可能性も高くなります。そのため施用か

らできれば50日以上あけて収穫することが望ましいとされています。



春の散布が遅いと一番草収穫後も地面にスラリーが！

《まとめ》

去年のように春の雪解けが遅いと、家から遠い畑まで手が回らず、家の周りに多めにたい肥を散布する傾向があります。
牛たちがサイレージをおいしそうに食べてくれるように、施用量を抑えた早めの散布を行ってみませんか？

